

交流・共同学習の記録

1. 学校名，授業者名

- ・ 自 校 横手市立栄小学校 神原欣也 五十嵐直子
- ・ 相手校 由利本荘市立鶴舞小学校 笹木幹子

2. 学年，組

- ・ 自 校 5 年 1 ・ 2 組
- ・ 相手校 5 年 竹組

3. 交流，共同学習のねらい

- ・ 5 年の理科「流れる水のはたらき」で、川の上流・中流・下流部分を観察・比較する学習があるが、地理的条件によって、上流・中流は観察できるが下流までは足を運べない栄小学校と、逆に上流の観察は難しい鶴舞小学校が共同学習をすることにより、得られにくい学習をお互いに補完し合い高め合うことをねらいとする。

したがって、単発の交流ではなく、単元を通した取り組みがより効果的と考え実施した。

4. 学校外の人に TV 会議システム利用を広げるねらい（必要性）

- ・ 学校外の支援者 湯沢河川国道事務所
- ・ ねらい

子どもたちが実際に川の観察にいった感じた「災害をふせぐ工夫」についての疑問（あらかじめ質問事項を連絡）についての回答を含めながら実際の取り組みをもとに、理科「流れる水のはたらき」と関連づけながら「災害をふせぐ工夫」について説明してもらう。

一方の学校が招いた支援者を両校で活用できることが利点である。また本時は単元の最終部分となるが、3. で述べた共同学習のよさを本時にも生かすことをねらいとした。

5. 実際

(1) 教科，単元名

- ・ 理科 「流れる水のはたらき」

(2) 本時のねらい

- ・ 災害をふせぐ工夫について「流れる水のはたらき」と結びつけながら理解することができる。

(3) 本時の実際

学習活動	教師や（学校外の人）の支援
1. 本時の課題の確認	・ 川の観察に行く際に、観察のテーマを「災

2. 「災害を防ぐくふうをみつけよう」栄小学校の発表 ・鶴舞小から栄小学校の発表に対する質問や感想 3. 「災害を防ぐくふうをみつけよう」鶴舞小学校の発表 ・栄小から鶴舞小学校の発表に対する質問や感想 4. 河川国道事務所の方のお話その1を聞く。 ・お話その1への質問・感想（両校） 5. お話を聞いて分かったことを確認する。 （神原：担当） 6. 河川国道事務所の方のお話その2を聞く。 7. 感想発表	害をふせぐくふうをみつけよう」にしたグループに観察して見つけたこと、分かったこと、疑問に思ったことなどをまとめさせておく。 ・相手校にも分かりやすく伝える発表のしかたについての指導。 （パワーポイント、ビデオ映像などの活用） 災害を防ぐ工夫について理科の学習（けずる・運ぶ・積もらせる）と関連づけてお話して頂く。 自然との共生をはかった 多自然型河川の整備など、新たな事業の流れなどについてのお話をして頂く。
--	--

6. 実践を通しての提言

・今回の場合は、河川国道事務所の方を招いての授業だった。栄小学校・鶴舞小学校それぞれが自校に近い河川国道事務所の方を招いて授業を行えば、TV会議システムを使わなくても単独でできるものであった。しかし、単元を通して共同学習をした結果、子どもたちには上流・中流・下流を比較して考える視点ができてきたように考えられる。今回の場合も、上流ならではの視点（栄小）、下流ならではの視点（鶴舞小）からの質問が多く出て、自校単独で行う授業にはない学習の広がりを持たせることができた。

提言： ゲストティーチャーにリアルタイムで両校の子どもたちが述べる意見や質問・疑問は学習の広がりを生み、お互いの視野を広げることになるのではないか。